

# 文京区中高生育成基本方針

～かけがえのない10代を過ごすために～

文京区青少年問題協議会

## ○ 文京区中高生育成基本方針策定にあたって

次代を担う青少年の健やかな成長は、私たちすべての大人の願いであり、また、いきいきと光輝く子どもたちの存在は、明るく活気あふれる「まち」を創る大きな原動力となります。

中高生世代は、近い将来、社会人として巣立ち社会全体を支えていく世代であり、その育成は重要な課題の一つです。親と過ごす時間の中で多くを学ぶ小学生世代と異なり、中高生世代は親以外の様々な人間関係の中で、社会性を身につけていかなければなりません。しかし、都市化・核家族化等に加え、携帯電話やインターネットの普及により、人と人との会話を通じた関係づくりや学び合いの機会が減少し、現在の中高生世代は、多くの人との関わりを通じて社会性を学ぶ機会が圧倒的に少ない状況にあります。

このような時代に生まれ育ち、アプローチが難しいと言われる世代でありながら、今後、社会の中心的役割を担っていく中高生世代の育成は重要な課題であることから、このたび文京区青少年問題協議会では、中高生が大人になるまでの総合的な育成支援施策を推進するために「文京区中高生育成基本方針」を策定しました。この基本方針では、中高生世代が自立した大人に成長していくために必要な3つの「チカラ」を記すとともに、子どもたちの自主性を育むための環境づくりとして、私たち大人の「姿勢」にも言及しています。さらには、地域活動やボランティア活動に対する中高生の意識や意欲は、当事者の成長とともに変化していくことから、その変化に継続的に対応する事業の方向性も示しています。

本区では、平成27年度に、中高生の自主的な活動を応援する（仮称）青少年プラザの整備を計画していますが、この基本方針はその設置に関して行った中高生アンケートの結果も活用しながら、日頃より地域の中で中高生世代と本気で関わり、その気持ちに寄り添ってきた関係団体の方たちの想いを基に組み立てられています。文京区青少年問題協議会を構成する団体の深い理解と強い協力関係のもと、その想いを可能なものから具体的な形にしていくことが必要です。

中高生世代の健やかな成長を願う私たち大人の想いは、やがて大きな流れとなり、「かけがえのない10代」を彩る大きな「チカラ」となります。この基本方針をここで終わらせることなく、青少年関係団体の皆さまの「チカラ」で、中高生が力強く社会に踏み出していけるよう期待するものであります。

平成24年1月

文京区青少年問題協議会会長 成 澤 廣 修

## I 中高生世代の現状

### 1 中高生世代の特徴

#### (1) コミュニケーション能力

都市化や核家族化等に加え、昨今の携帯電話やインターネットの普及は、私たちを取り巻く環境を大きく変化させました。とりわけ、このような環境で生まれ育った現在の中高生世代は、携帯電話やメールなどによる「顔の見えない」コミュニケーションが得意である一方、様々な立場の人との直接的な関わりから社会性を育むような機会が少なく、対話等を通じて気持ちを伝え合うことが苦手な一面も見受けられます。

また、大人への成長過程にあるこの世代特有の周りとの距離感もあり、子どもたちからコミュニケーションの第一歩が踏み出せないこともあります。しかしながら（仮称）青少年プラザの設置に関する中高生アンケートの回答では、人との関わりや新たな人間関係に対する意欲も見受けられます。

#### (2) 自己表現の仕方

（仮称）青少年プラザの設置に関する中高生アンケートや、地域活動での子どもたちの姿を見ている中では、新たなことに挑戦する意欲やいざという時の行動力も見受けられ、時には失敗や挫折に対する悔しさの感情を素直に表すこともあります。

しかし、その一方では、周囲の目を気にしているのか、あまり個人としての意見を言わず、周りに合わせる傾向がある他、集団活動の中ではリーダーになることに消極的な傾向も見られます。

#### (3) 「自分のため」から「人のため」へと、成長の過程にいる世代

子どもから大人への成長過程においては、子どもたちの気持ちや行動が「自分のため」から「人のため」に変化していくことが顕著に表れ、「人のため」に行動することは、子どもたちの成長の証とも言えます。中高生世代は、主に「自分のため」を考えがちな子ども世代から、「人のため」に行動できる大人世代への成長過程に位置付けられ、社会に踏み出していくための準備期間でもあります。

### 2 中高生世代を取り巻く大人の姿

#### (1) 「叱る」ことに対する意識

最近の親子関係では、親が子どもと友人のような関係で楽しく過ごす姿が見受けられます。また「常に仲の良い関係でいたい」「嫌われたくない」という想いや、しつめることへの関心の低さなどから、「叱らない」「叱れない」大人も少なくありません。万引きをした子どもにも叱ることができない親がいるなど、「叱る」ことに対する心構えができていないように思われます。「叱る」ことの本質を見失うことは、結果として、中高生世代の社会的な規範意識を低下させることにつながってしまいます。

## (2) 最善の結果を求めるためのリスクの回避

中高生世代の成長には、その期間での経験やその時に受けた感動の差が大きな影響を与えます。しかし、子どもたちが何かの行動を起こそうとする場合、常に大人が先回りして、リスクを回避しながら最善の結果に導こうとする姿が往々にして見受けられます。

子どもたちが何かに自主的に取り組むことは、時として大人の何倍もの時間を費やしたり、思い描いていた結果を出せなかったりすることもあります。しかし、大人が与える環境の中だけで目標を達成していくような生活では、子どもたち自身が本当にやりたいことを見いだすことができないだけでなく、結果的に「面倒なことからは逃げる」「リーダーは苦勞が多いから避ける」というように、困難な状況から回避してしまう姿勢が身につけてしまうことも懸念されます。

## Ⅱ 中高生育成に必要なもの

### 1 「やる気」や「情熱」を表せる環境

現在の中高生世代は「個性を出さない」「目立とうとしない」というイメージで見られがちですが、内面には「やる気」や「情熱」といった前向きな気持ちを持っており、そのような自らの考えを素直に表すことのできる環境が必要です。

また、中高生世代は、様々な活動を通じて自信を持つと、年下の子にも同じような経験をさせてあげようとする思いを持つようにもなります。そして、大学生・高校生・中学生といった学年を超えた関係の中で、その活動の楽しさや自分の考えを伝えあったり、自他の違いに気づいたりしながら大きく成長していきます。自らの気持ちを素直に表現する環境の中には、このような学年を超えた「縦のつながり」をつくることも必要です。

### 2 未知の可能性に期待し、成長のプロセスを認める意識

様々なことに挑戦させることで、中高生世代の潜在的な意欲を引き出し、子どもたちの自主性や問題解決能力を育てていくことが必要です。子どもたちは、自ら何かに取り組む中で喜びや失敗、挫折といった様々な経験をし、それらを成長の糧として社会に巣立っていきます。そのためには、子どもたちが自主的に何かに取り組むことの必要性を大人が認識するとともに、結果ではなくそこに至るまでのプロセスを認める意識も大切です。

### 3 社会人として社会に貢献する意識の醸成

近い将来、社会へ巣立っていく中高生世代には、社会人として相手のことを考え「人のためにどうするのか」という基本姿勢を身につけさせる必要があります。そのためには、身近にいる大人が子どもたちの憧れとなるような姿勢を見せることが重要です。

### Ⅲ 文京区中高生育成基本方針

#### 1 目的

中高生世代が社会へ踏み出すための、区や地域社会としての支援のあり方をまとめ、区や地域団体が実施する中高生向け事業の充実を図るために、文京区中高生育成基本方針を策定します。

#### 2 基本方針の位置づけ

「文京区青少年育成プラン（はじめの一步!）」の基本的理念を踏まえつつ、中高生世代の育成や事業の基本的な方針として、区や文京区青少年問題協議会を構成する地域の青少年関係団体で共有・活用します。

#### 3 対象

この基本方針は、おおむね12歳から18歳までの中学生・高校生の世代を対象とします。

#### 4 育成目標 ～身につけてほしい「チカラ」や「姿勢」～

##### (1) 育成目標

現在の中高生世代を取り巻く様々な状況や、社会へ踏み出すための準備期間であること等を踏まえ、「中高生世代の健やかな成長を支え、社会へ踏み出すための『たくましさ』と、人のために行動できる『やさしさ』を育む」ことを基本的な育成目標とします。

##### (2) 中高生世代に身につけてほしい3つの「チカラ」

育成目標に基づき中高生世代が大人へと成長していくために、子どもたち自身が次のような「チカラ」を身につけていくことを目指します。

###### ① 目標に向かって、自ら考え歩み出せる「チカラ」

自分の将来像を思い描きながら、目的意識や目標を設定した行動が求められます。そして、何よりも自分の考えや行動に対する自信を持ち、自らの考えや判断に基づく行動をしなければなりません。

###### ② 失敗や挫折を乗り越えて、自分らしく生きる「チカラ」

何事にも前向きに挑戦する意欲と、失敗を恐れない姿勢が必要です。日常的な「失敗」は「大きな成長」につながります。目標を達成するための過程では様々な困難な状況が待ち構えています。その一つひとつを自らの力で乗り越えていくことが、問題解決能力や判断力の向上につながります。

### ③ 自らの体験・経験を他人のために活かせる「チカラ」

様々な体験や経験の積み重ねは、自らに大きな自信を与えます。さらに社会人として踏み出していく過程においては、その体験・経験など自らの力を他者のために活かせるような行動や姿勢が必要となります。そのためには、立場の違う様々な人間関係の中で自他の違いを認識し、さらには地域社会の一員としての人間関係を育てていかなければなりません。「大学生・高校生・中学生」といった縦のつながりの中で、他人のために行動する意識の醸成を図ることも効果的です。

## (3) 中高生世代の自主性を尊重した間接的なサポートと環境づくり

中高生世代の育成を考える上では、周りの大人の理解とサポートが必要ですが、この世代の特性を考慮すると、中高生世代の自主性を尊重した間接的なサポートと環境づくりが必要です。そのためには、私たち大人が次のような「姿勢」を身につけることが求められます。

### ① 子どもたちの能力を引き出し、前向きな成長を認める「姿勢」

中高生世代の未知なる可能性を信じ、何事にも子どもたちが安心して挑戦できる環境をつくることが重要です。子どもたちが困難な状況にぶつかり迷う時には、大人としての間接的な関わりの中で最善の方向へ導くことができる、「頼れる存在」にならなければなりません。そして、たとえ思うような結果が出なかったとしても、そこに至るプロセスに見られる、前向きな成長を認める意識が必要です。

### ② 子どもたちの憧れであるために、自らの言動を見直す「姿勢」

私たち大人は常に子どもたちの憧れであり、模範となるような姿を見せなければなりません。とりわけ、自分の将来を思い描きながら、これから社会に踏み出そうとしている中高生世代には、直に関わる大人の言動が大きな影響を与えます。大人としての規範意識を高めるとともに、時には中高生世代の現状に照らし合わせながら、自らの判断の尺度や目線を見直す必要もあります。

### ★ 中高生の主体性を育むための環境づくり ★

- 1 中高生の意見に「温かいまなざしを向ける」こと
- 2 「口を出さずに目を掛ける」程好い距離感を保つこと
- 3 楽しさを共感し、当事者とともに「本気で取り組む」こと
- 4 中高生の「やる気を助長する」ような接し方を見極めること
- 5 何事も経験させることが大切 プロセスの全てが成長につながる意識を持つこと

## 5 事業の方向性 ～3つの「チカラ」を身につけるために必要な「ステージ」と環境の整備～

中高生世代がこの基本方針に掲げる3つの「チカラ」を身につけるためには、区や学校、地域団体等が協力・連携しながら、中高生向け事業を幅広く実施していかなければなりません。特に、子どもたちの意欲や経験の差にも応じることができるよう、各事業は次のような考え方で整理しながら実施していくとともに、中学生から高校生までの大きく異なるライフスタイルにも配慮した事業の工夫をしていきます。

### (1) 自分に気づき、自分を築く「きっかけ作りの場」

中高生世代に体験や経験する場を提供し、子どもたちの「やる気」を創出します。参加する子どもたちは、地域行事の楽しさや自分の個性、新たな目標等を発見するとともに、「地域活動の入口」「地域との接点」として、地域の中の自分を認識します。

#### ◎ 事業イメージ

- ・ 地域行事のボランティアスタッフとしての参加
- ・ 中高生世代の特徴・特技を活用した地域事業への協力  
(パソコンによる事業用ポスターのデザイン・作成等) 等

### (2) 手伝うから創り上げるへ「自分を高める場」

子どもたちの主体性を尊重し、子どもたち自身が事業を企画・運営します。その中で子どもたちは仲間を増やし、意欲や目標を拡大していくとともに、各々の個性を伸ばしていきます。また、活動の継続性を図ることで、子どもたちにとっての居場所の発見にもつなげます。

#### ◎ 事業イメージ

- ・ 中高生企画事業
- ・ メンバーの組織化の推進 等

### (3) 若い力を他者へ還元し「自らが必要とされる場」

様々な立場の人に中高生世代の若い力を還元し、「誰かのため」に行動する意識の醸成を図ります。地域の中で自らが必要とされることにより得られる自己の存在感や自己肯定感は子どもたちが成長するための大きなエネルギーとなり、自立心や社会性の向上につながります。

#### ◎ 事業イメージ

- ・ 異年齢交流事業(中高生企画)
- ・ リーダー育成事業の推進
- ・ 地域防災活動への参加促進 等

### (4) 全てのステージに求められる環境整備

前述の考え方により整理された事業を実施していくためには、その活動を側面から



サポートするような環境整備が必要です。区や学校、地域団体が協力しながら、各団体や機関、施設の特徴を活かした環境づくりが求められます。

## ① 中高生の活動拠点

### ア 地域の活動拠点として～児童館事業の活用～

児童館は、0～18歳の子どもたちを対象に、地域の安全な遊び場のひとつとして利用されている施設です。午前中は主に乳幼児と保護者、午後は主に小学生が利用していますが、中高生世代の利用については、施設環境がその世代の活動に合わない等の理由から少なくなっている状況です。

その一方で、中高生が気軽に集まれる居場所の確保も課題の一つとなっており、児童館が中高生世代の活動拠点としての役割を担うことが求められます。

児童館は中高生世代がこの基本方針に掲げる3つの「チカラ」を身につけるための取り組みを、安定的かつ継続的に提供することが可能な施設であるとともに、中高生が小学生の活動をサポートする等、異年齢交流を通じて「他人のため」に行動する意識の醸成を図ることにも有効な環境にあります。さらには、地域団体が実施する活動と連携を図ることで中高生世代の社会参加のきっかけにもつながるなど、児童館における中高生向け事業を活用することは、その世代の育成に関して、様々な角度から大きな成果が期待できます。

### イ 区の一拠点として～（仮称）青少年プラザの整備～

平成27年度に、中高生世代の自主的な活動を応援する施設として整備される（仮称）青少年プラザは、区内における中高生向け事業の一大拠点として期待されています。地域における中高生向け事業と（仮称）青少年プラザでの事業は、各々の特徴や地域性を活かしながら実施されますが、相互が積極的な連携を図ることで、さらなる中高生向け事業の発展につながる可能性もあり、施設整備後は、このような連携体制を構築することが重要です。

## ② 中高生を地域に送り出す応援団

### ア 学校と地域団体の相互理解と連携

中高生世代が社会人として社会へ踏み出していくためには、地域の中で様々な立場の人と関わり社会性を育んでいくことが重要であり、そのためには、中高生がその生活の大半を過ごす学校からの働きかけが最も効果的です。学校と地域団体が相互に尊重・理解し合う関係を今以上に強化しながら、子どもたちが安心して地域活動に参加できる雰囲気をつくることで、地域の一員としての自覚を高め、身近な地域社会への参画意識を持つことが重要です。

## イ 地域情報の集約とその発信

中高生が地域活動に参加しやすい環境をつくるためには、対象事業等の情報を発信することも重要な手段の一つです。現在、多くの場合が地域団体と学校等が直接情報を交換しながら中高生の参加を促していますが、中高生が持つ地域活動やボランティアに対する意識や求める内容に差もあることから、その幅広いニーズに応えるためにも、より広域的で様々な内容の地域情報を提供する必要があります。特に、パソコンや携帯電話等による情報収集を得意とする中高生世代に対しては、インターネット等を活用した情報発信がより効果的であるとともに、地域活動に参加した中高生自身の声も発信する仕組みをつくることで、子どもたち同士のつながりも生まれ、より参加しやすい環境をつくることにもつながります。